

熱帯スイレン温室および大温室 における植物への獣害について

西内良・藤井智展

概要

2023年3月から10月にかけて、熱帯スイレン温室及び大温室の植物が獣害を受けたので記録する。

経緯

2023年3月中旬、熱帯スイレン温室内の下池の岸辺の浅瀬で生け簀を設置し、そこで根腐れした熱帯性スイレンを養生していたところ、株が消失した。その後、同温室内の岸辺の浅瀬や、室内の陸上に設置した睡蓮鉢で管理していた熱帯性スイレンが4月以降、植え付けている鉢から次々とえぐり取られ、消失する事態が頻発した。その主な被害を表1に示す。

原因の特定と対応

被害は夕方には確認されず、主に朝に確認されたことから、熱帯性スイレンの消失は主に夜間に発生していると考えられた。また、6月中旬以降はスイレン温室内の池の岸辺で熱帯性スイレンの塊茎の残骸が発見されるようになった。そのため、暗闇でも録画が可能な監視カメラを熱帯スイレン温室内に1台設置した。その結果、7月15日 AM1:39に、体長がおよそ25 cmの小動物が水中を遊泳する様子が撮影されていた（写真1, 2）。なお、尾の長さは映像からは判断できなかったため、この推定体長には尾の長さを含めていない。推定体長、四肢および細い尾を有していたこと、また遊泳の巧みさから、この小動物はドブネズミである可能性が高いとみて、6

月下旬、ネズミ類捕獲用の罠と殺鼠剤を設置した。

経過

熱帯スイレン温室に罠を設置したものの、一向に小動物は捕獲できず、また殺鼠剤も摂食されないまま7月中旬まで食害は続いた。その後、熱帯スイレン温室内での被害はなくなった。一方で、8月ごろから大温室内でネズミらしき小動物が複数個体、頻繁に目撃されるようになった。そしてそれらが地面に落ちた果実の摂食をしていると思われる状況が続いた。そのため、大温室内にも殺鼠剤を設置した。その結果、ハツカネズミの遺骸が3回、大温室内で見つかった。これらの遺骸の体長は尾を含めても体長約15 cm程であった。これは7月15日に監視カメラが撮影した映像内の小動物の推定体長25 cmよりも小さい。このことから、熱帯スイレン温室に被害をもたらした小動物はこの3個体のハツカネズミではないと考えられる。なお、10月下旬以降、大温室内でも小動物の確認や果実の食害は発生しなくなった。

今後について

この度熱帯スイレン温室において被害をもたらしたドブネズミとみられる小動物について、殺鼠剤を設置したものの、その遺骸を熱帯スイレン温室および大温室内で確認できていない。そのため、被害が再発する可能性が十分に考えられる。熱帯性スイレンにおける被害は甚大で、これにより失った品種もあった。今後の対応として、今年度に被害が集中した時期である3月から7月にかけて、殺鼠剤の再設置を行い、再被害時の損失を最小限に抑えたい。



写真1 夜間に池を遊泳する小動物（白枠内）

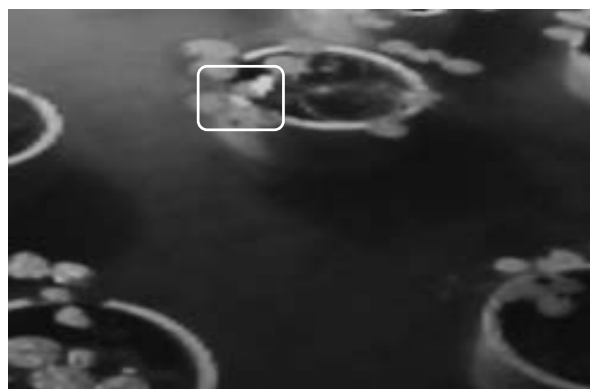


写真2 池内のスイレンの株本を食害する小動物（白枠内）
夜開性スイレンの花が倒されている

表1 熱帯スイレン温室における主な被害状況

被害日	被害株数	被害内容
3月中旬	1	下池の東岸に設置したいけす内で養生・発根待ちだった株が消失
4月9日	4	温室内の睡蓮鉢に入れていた4株が、塊茎をえぐり取られて消失
4月16日	2	水を満たしたプラ製コップ内で塊茎を養生していたところ、塊茎が消失
4月17日	1	水を満たしたプラ製コップ内で塊茎を養生していたところ、塊茎が消失
4月19日	1	水を満たしたプラ製コップに塊茎を沈めていたところ、塊茎のみ消失
5月21日	1	水で湿らせたピートモスをポリポットに入れ、塊茎を軽く包んでいたところ塊茎が消失
5月23日	10	下池の東側浅瀬に沈めていた鉢植え10鉢が倒され、半数は用土から芽が抜けて流れ、行方不明
6月8日	2	水を張ったバケツ内に入れていた塊茎が消失
6月13日	3	下池に据え置いた大鉢の上に乗せていた小鉢から塊茎が消失
6月21日	7	下池南岸と東岸の鉢について、芽と塊茎がえぐり取られる ※以降被害は続いたものの、一時的に記録を取れず。岸辺に塊茎の残骸が現れるようになる
7月15日	1	下池内を遊泳し、同池の大鉢に植栽したスイレンの株元を潜水して食害する動物が録画される